

SSKS

発行人 SSKS 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号室

あゆみ会報

編集人 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町 2 1-4 SEA 平塚ビル 3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50 円（会員は年会費に含まれています）

2026 年 8 月号 第 220 号

報 告

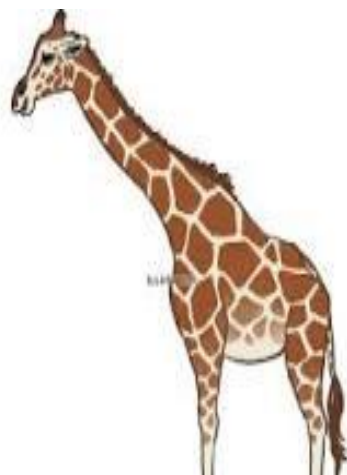
●家族会バス旅行 横浜ズーラシア動物園へ

6 月 1 日 県の福祉バスを使って当事者 6 名を含む 22 名で横浜ズーラシアへ行ってきました。梅雨前の爽やかなはずが真夏のような暑さになってしまい、参加された皆様特に当事者の皆様、たいへんお疲れ様でした。

広い園内は、アフリカのサバンナ、亜熱帯の森、中央アジアの高地など 8 つのエリアに分かれ、動物たちが自然に近い環境で過ごせるようにできていました。特にペンギンが歩いているところや水中を泳ぐ北極グマの姿など大変面白く、動物好きの人には絶好の場所でした。緑の中でゆったりと過ごし、動物たちの自然な姿を見ることができ、心安らぐ一日となりました。歩くのに疲れた人達は休憩所でアイスクリームなどを食べながら、普段お話する機会のない方々ともゆっくりおしゃべりすることができ、良い交わりの時を持つことができました。



入り口広場で 全員集合



●心理勉強会 6 月 14 日（日） 13:10~16:10 平塚市福祉会館 参加者 17 名

講師 心理カウンセリングルームそらいろ代表 井上雅裕氏

『対話の深さがもたらす改善効果』

会話の質的な深さが、信頼関係の回復だけでなく、自信の回復、病の回復に繋がります。

浅い対話……………身体的アプローチ（医療的、一般的）

（誰とでも
交わせるもの）

「体温はどう？」「食欲はあるの？」
天気の話など

なかなか回復には繋がらない

深い会話……………心理的アプローチ
(話せる人が限られる事柄)

「理解された」「ここに居ていいんだ」
と安心感をもたらす、信頼感を育てる

(1) 価値観のギャップは慌てて埋めてはいけない

人間関係の問題の多くは価値観や考え方の違いから生じます。「当事者をこのままにしておけない」と、急いでギャップを埋めようと努力すると良くありません。当事者は、自分を変えようとしていると受け取り、防衛体制を取ってしまいます。話し合いをしているつもりが、互いに自分の立場を守る争いになってしまいます。少しずつ踏み込んでいきます。焦りは禁物です。

…「こんなもの買ってきたけど一緒に食べる？」

…他人の話だと気軽に話せたりする（芸能人の話題など）



(2) 機嫌取りは安定ではなく、停滞、悪化を生む

対立を避けようとして、相手の機嫌を取ることは本質的な解決にはならない。
社会復帰にはつながりません。

不機嫌になる⇒周囲が譲る⇒一時的に落ち着く⇒同じことが繰り返される⇒状態の悪化⇒責任転嫁・絶望（自分がこうなったのはおまえのせいだ、金をよこせ…）

(3) 深い対話が協調を生む

同じ考えになる事ではない。違うまま話せること、存在できること。対等に否定せず話し合うこと。…「ふ〜ん、あなたはそう思うのね」

人は安心できる時、自分で考え始める。当事者の精神年齢（成熟度）にもよりますが、無理に説得されるより理解されながら考える方が変化を起こしやすい。「理解された」「ここに居ていいんだ」という安心感⇒防衛体制が弱まり、自己開示がのびのびできる⇒自主的に感情表現することで健全性が増す

- ・状況が変わらないで、時間だけが経過していくと当事者にとって苦しみだけが増していく感覚になる。
- ・親子で一緒に居ると苦しい時、穏やかに話し合ってお互いの距離を取ることも一つの方法。親が飛び出してしまって、当事者が捨てられた感覚になると親が戻った時に当事者がそれまでより何倍も荒れてしまう。
- ・警官にも個人差がある。精神障がい者への対応が上手な人とそうでない人がいる。
- ・当事者への「何をしてほしい？」という言葉かけは、当事者が穏やかでない時には要求をエスカレートさせてしまう恐れがある。
- ・「自分はどこに行っても歓迎されない」という認知の人。認知の修正は簡単にできるものではない。ゆるやかにする。当事者が興味を持つ分野での好奇心の瞬発力が事態を変えるきっかけになることもある。
- ・当事者の欠点を欠点として捉えないようにするのは難しいが、マイナスな領域だけを取り除こうとするとプラスの領域も減少する。プラスの領域を伸ばすとマイナスの部分が目立たなくなる。
- ・心理の勉強は具合が悪くなった人だけに必要なのではなく、育児をする全員に必要。この意見に保育園の先生は皆賛成するが、学校の先生になると消極的。

・家族会はいろいろな人の話を聞くことができ、自分のこともさらけ出して話せる場所。対話をする練習になる。

●SST 勉強会 7 月 12 日 参加者 12 名 初めての方 1 名

高森先生が体調不良のため急遽中止となりましたので、サロンあゆみをおこないませんでした。それぞれの方の現状発表、グループホーム見学のお話、地域活動センターと就労継続支援 A 型 B 型の違い、精神科病院の現状など様々な話題が出て、活発な意見交換ができました。

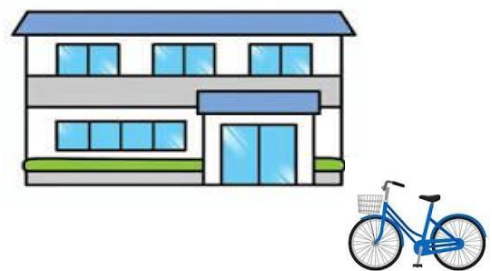
●グループホーム「サザン松林」見学記

先日、梅雨の晴れ間をぬって茅ヶ崎市にあるグループホームを役員数名で見学に行きました。そこはあゆみ会の会員の方が建てたところで、JR 茅ヶ崎駅と辻堂駅の間ほどにあり、国道 1 号線に面してバス停も近く、交通の便利な所にありました。広い敷地内には、2 棟のグループホームの外に、就労継続支援 B 型事業所と生活介護事業所を併せ持つ多機能型施設「アゼリア海風」も併設され、メンバーさん達が静かに作業をしていました。

グループホームは 14 室、全室個室でバス・トイレ・ロフト付。ほかに食堂兼リビングがあり、食事は朝・夕の 2 食。土・日・祝日は昼食もあり、居心地がよくて出て行く人はいないそうです。

B 型事業所では箱の組み立て、紙製品の袋詰め等の軽作業の外に、プリンやドーナツなども作っており、私達見学者も濃厚な味のプリンをご馳走になりました。販路は学校、企業内での販売、イベントへの参加などのほかに道の駅にも納入しているそうですが、すぐ売り切れてしまうほどの人気商品だそうです。

運営は社会福祉法人 県央福祉会が行っており、グループホームには常勤職員 2 名のほかに夜勤職員も配置しているとのこと、メンバーさん達の笑顔と明るい雰囲気から安心できるよい施設であることが視えました。世話人さんは元精神科病院の看護師をしていたという方でしたが、驚いたことにポケットから 2 年前のあゆみ会報を取り出し、いつもこれを見て参考にしているとおっしゃっていました。私達の会報がお役に立っている事の喜びと共に、昨今株式会社経営のグループホームの質の低下がいわれる中、こういう世話人さんがいるグループホームが増えることを願いました。



●「重度障害者医療費助成制度拡大について」 平塚市議会で質問

去る 6 月 17 日 平塚市議会一般質問において、しらさぎクラブの渡部亮議員が「重度障害者医療費助成制度の精神障害者 2 級の対象化について」質問して下さいました。

〈主な内容〉 精神障害者は見た目には分からない障害であり、その大変さが周囲に理解されにくい特徴がある。病状の不安定さやストレスへの脆弱性から安定した就労が難しく、障害年金は月約 6 万円に留まり、親の支援がなければ生活できないというのが多くの当事者の実情であり、医療費の負担は当事者と家族にとって大きな不安となっている。

本市の助成制度では精神障害者保健福祉手帳 1 級は対象となっているものの、2 級は対象外で、支援団体からは毎年 2 級への拡大が要望され続けており、県に対して 2 級まで適用するよう意見書を提出することも求められている。しかし市の回答は「近隣自治体の状況を注視する」とのみ記されており、県への意見書提出についても一切触れられていない。相模原市、鎌倉市、藤沢市、海老名市、大磯町、二宮町がすでに精神 2 級を対象にし約 20 年前から適用している。令和 3 年 3 月の環境厚生常任委員会においても精神 2 級への拡大について質問され、市は「他市の状況や社会状況を広く勘案しながら総合的に検討する」と答弁した。それから 4 年が経過している。以上を踏まえ 2 点伺う。

1. 近隣自治体の一部が約 20 年前から精神 2 級を対象としている中、本市が対象としない現状について。
2. 環境厚生常任委員会の答弁以降、精神 2 級への拡大についてどのような検討がなされてきたか。

〈福祉部長の答弁概要〉重度障害者医療助成は県と市が 2 分の 1 ずつ負担していることから、県基準に合わせている市町が多く、本市も県基準に合わせている。障害者の自立や社会参加が進み、新たなニーズが増加していることから、現時点では地域移行などの障害福祉サービスを充実させる事を優先的課題と捉えている。重度障害者医療費助成制度については、本市としては全国統一基準による国策として実施して欲しいと要望している。県に対しては様々な機会を捉えて要望しており、県市長会を通じた要望の中には 2 級へ広げて欲しいという内容も入っている。本市としては持続可能な制度としていくために、必要な見直しも行なってきた。現段階においては現行制度の維持に努める。

これからの予定のお知らせ

- 9 月 17 日（日）13：00～16：00 講演会「精神科訪問看護の利用について学びましょう」
講師 訪問看護ステーション GrowS 樋口翔一氏 福社会館会議室
- 10 月 6 日（火）10：00～12：00 じんかれん研修会 「回復は“特別なこと”じゃなかった」
講師 ぴあるく 代表 瀬戸崇史氏 〈詳細はちらしをご覧ください〉
- 10 月 11 日（日）13：00～16：00 心理勉強会 福社会館会議室
- 10 月 29 日（木）30 日（金）31 日（土） 福社会館まつり

「これからの精神医療福祉を考える院内集会」が開かれます！！

9 月 29 日（火）午後 1 時より 衆議院議員会館大会議室（国会議事堂裏）

「安心して病める」だいじょうぶなインクルーシブ社会の実現に向けて」

全国の病院の病床稼働率低下により日本精神病院協会が政策転換を打ち出してきました。

今こそ一人一人の力を持ち寄って、当事者、家族が安心できる医療福祉制度を目指しましょう。皆様の参加をお願いします。 みんなが声を上げることで社会を変えることができます。

【訃報のお知らせ】

NPO 法人じんかれん理事長 小松守也様はかねてより病氣療養中のところ
さる 6 月 5 日 83 歳にて永眠されました。
ここに深い悲しみとともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

